



古川

擬木橋は3か所に設置しました。既設の橋は防腐処理を施した木材を利用した木橋となっておりますが、メンテナンスコストを縮減し、腐食による事故を防止するため、擬木(PC擬木)を利用した擬木橋としました。擬木の色は周囲の景観になじむよう「古木」をイメージした色を選んでいます。

広島市安佐南区の古川において進めていた環境整備工事が、平成21年度内に完了しました。
整備の内容は遊歩道設置・橋の桁下の洗堀防止・堤防高さ不足箇所の盛土・擬木橋の設置で、より親しみやすく利用しやすい古川の創造をめざしました。
今回、未施工部分の遊歩道は、周囲の景観になじむよう土系舗装(まさ土)を利用した舗装材としました。
橋の桁下の洗堀防止については、橋から落ちる雨水等により桁下が大きく洗堀されている場所に空石張を施しました(桁下は日差しがとどかないため、芝等が活着しません)。
擬木橋は3か所に設置しました。既設の橋は防腐処理を施した木材を利用した木橋となっておりますが、メンテナンスコストを縮減し、腐食による事故を防止するため、擬木(PC擬木)を利用した擬木橋としました。擬木の色は周囲の景観になじむよう「古木」をイメージした色を選んでいます。

より安全に、親しみやすく 古川の環境を整備

広域拠点として開発が進む出島地区の高潮対策事業

『出島地区高潮対策事業』が担う役割
広島市南区出島・宇品西地区は太田川河口の東側に存在し、土地の高さは広島市中心市街地より高いにもかかわらず、台風接近による気圧低下や強風により海面上昇が起ると、高潮被害が発生しやすい箇所になっています。近年でも、平成16年台風18号発生時には、出島・宇品西地区等で浸水被害が発生しており、早期の高潮堤防整備が望まれています。

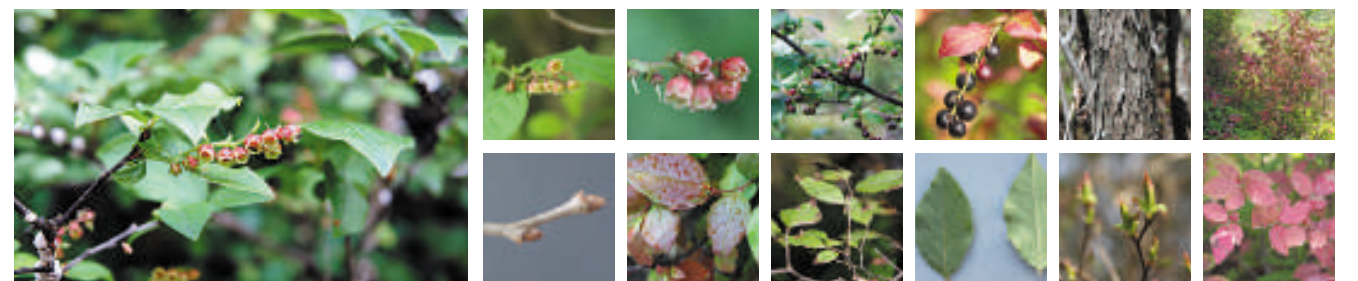


国土交通省では、平成16年度より出島地区の高潮対策事業に着手しており、昨年度までに計画高さとなる3段階の施工(T.P+4.4m)のうち2段階の高さ(T.P+3.4m)まで概成させています。平成21年度は3段階目の堤防工事に加え、水路の水を川側に吐き出す樋門工事を出水時期までの完成を目指しています。



『出島地区高潮対策事業』が担う役割
『広島ポートルネッサンス21事業』により交流連携、広域拠点として宇品内港埋め立てにより陸地が開発されてきました。更に『宇品地区住宅市街地総合整備事業』箇所として住居及び商業スペースとして開発されています。事業箇所の背後地は『広島ポートルネッサンス21事業』により交流連携、広域拠点として宇品内港埋め立てにより陸地が開発されてきました。更に『宇品地区住宅市街地総合整備事業』箇所として住居及び商業スペースとして開発されています。

「広島西部山系植生図鑑」その4 ナツハゼ



科名: ツツジ タイプ: 落葉低木
花の時期 5~6月
実の時期 10~11月

林内に日が差し込むような、明るい尾根に登ると決まって現れる、乾燥した尾根のアカマツ林を特徴づける植物です。

果実は、和製ブルーベリー。生で食べてよし、ジャムにも最適です。葉をつまんで、ザラザラとした触感があれば、ナツハゼです。

高さ1.5~3mの落葉低木です。葉の両面に、あらい毛が生えてるのが特徴です。葉は互生です。

ホームページに「広島西部山系植生図鑑」を掲載しています

太田川河川事務所 検索



大規模土砂災害危機管理訓練



報伝達・状況判断等の活動をロールプレイング方式で実施するものです。演習を行うにあたっては、①積極的な情報の収集と伝達・共有、②関係機関への適切な情報提供、③一般住民への適切な情報提供(避難情報やマスコミ等)を通じての広報)の三点を重視しました。

ロールプレイング方式とは「役割演技法」といわれる訓練手法のひとつで、訓練シナリオを知らされていない演習者のグループ(演習部Ⅱ赤のゼッケン)と演習の進行と評価を行うグループ(指揮部)に分かれて行うことにより、演習者は予測不能な実際の災害時に近い状況での活動を体験することができます。

太田川河川事務所では、今年度の「大規模土砂災害危機管理訓練」を2月5日に実施しました。
この演習は、広島西部山系において豪雨による大規模で広域的な土砂災害が発生する場面を想定し、その場合の情

昨年7月には、山口県防府市において土石流などによる甚大な土砂災害が発生したこともあり、演習当日は本番さながらの緊張感の中で進められました。

太田川河川環境改善研究会

「水の都」広島のかつての良好な河川環境を取り戻すため、国土交通省と県・市が協力して「水の都整備構想」を平成2年に策定し、環境整備を進めてきました。その後、水辺のいっそうの活用とまちづくり・市民交流への期待に応えるために平成15年、新たな「水の都ひろしま」構想がまとまり、さらなる整備が進められています。

太田川河川事務所では、学識経験者や漁業関係者らとの連携のもとで、さまざまな取り組みを進めています。2月24日には「太田川の河川環境改善に向けた取り組みに関する勉強会」の5回目の会合を開きました。

この日の会合では、川底のへドロの堆積を改善するために、市内派川で進められている、石炭灰を用いた底質改善



高瀬堰ゲート設備修繕工事を実施



高瀬堰のゲート設備修繕工事を実施中です。
主ゲート(1~4号)の歯当たり調整と歯面修正は終了しました。引き続き、左岸魚道ゲートNo.2開閉装置の油圧シリンダー整備、舟通しゲート附属設備の製作・据付を実施します。
また、流量調整ゲートについては、扉体装置のうち、下段扉休止ロッドの分解整備を行います。

◀ 3号主ゲートの歯当たり調整・歯面修正の完了検査

太田川放水路干潟造成完了

旭橋下流左岸で進めていた干潟造成が完了しました。干潟を再生するための事前調査フィールドとして整備したもので、造成には大芝水門・祇園水門上流部の河道掘削土(砂)を用いました。干潟造成の地盤高を変化させ、潮位の状況変化に伴う調査を行うため、5種類の試験フィールドを設けています。

今後、生態工学研究会メンバー(広島大学等)により、生物、物理、水質等の各分野に分かれて調査を実施する予定です。



太田川水系で54種類の魚類を確認



調査状況(投網)

国土交通省では、全国109水系の河川で「河川水辺の国勢調査」を実施し、川に棲む生物や、川の利用状況の調査を行っています。生物調査には、「魚類調査」「底生動物調査」「植物調査」「鳥類調査」「両生類・爬虫類・哺乳類調査」「陸上昆虫類等調査」の6項目があり、ローテーション方式で調査しています。

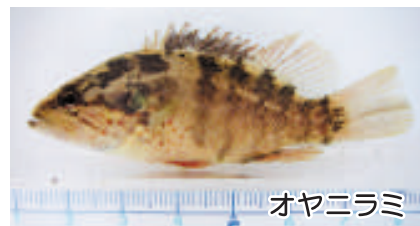
平成21年度において、太田川水系では魚類調査を実施し、夏・秋を中心に投網、定置網などを使用して10地点で調査した結果、54種類の魚が確認されました。そのうち重要種は13種類で、オヤニラミやカジカ(中卵型)、アブラボテなどが確認されています。また、全体的にはオイカワ、カワムツ、カワヨシノボリなどが多く確認されました。



オイカワ



アブラボテ



オヤニラミ

水辺の国勢調査結果報告